

植 調

第 1 卷
第 2 号

昭和 42 年
6 月 20 日 発行

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

目 次

水稻の収量性とケミカル・コントロール（農林省農林水産技術会議事務局 研究調査官 仮谷 桂）……	1
東南アジア諸国における農薬の研究と消費動向（農林省農林水産技術会議事務局 参事官 石倉秀治）……	5
除草剤の今後の方向(2)（農林省農事試験場 農学博士 荒井正雄）……	9
昭和41年度畑作用除草剤試験成績概要……	12
新除草剤……	20
植調協会だより……	24

不可能を可能にする

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党

昭和14年、時の近衛首相は事件不拡大の方針をとっていたにかゝらず、事態はいよいよ戦争の様相を呈してくると共に、わが国の食糧事情にも不安が持たれるようになってきて、農林省は食糧増産に大わらわにならざるを得なくなってきた。作物の栽培に要する肥料を初めとする各種の資材に欠乏してくるし、働き盛りの男手も段々と兵隊に召集されて、農業条件の悪化の中で、しかも従来よりも沢山の食糧を得ようとするのであるから、これは正に神わざといわなければならない。石黒忠篤農林大臣は、農民やその他農業関係者をはげますために、戦争は不可能を可能にしなけ

れば勝つことは出来ないということを度々口にされた。これは、人間の精神力をもって不可能を可能にせよとの言に違いない。しかし今日、植物生育の調節剤や除草剤などの働きを見ていると、以前は到底可能とも思われなかったことをやってのけている。科学の進歩が、不可能を可能としつゝあることを、深く思わせるものがある。だからといって、精神力が不必要だということではない。たゞ、精神力の使い所を単なる気合としてでなく、科学の開発に用いてこそ、真の効果をあげ得られるのではないだろうか。